

平成23年度 戸隠中学校 学校自己評価報告書

1. 学校教育目標

『己に克つ』という強い意志を持ち、粘り強く最後までやり抜く

2. めざす生徒の姿

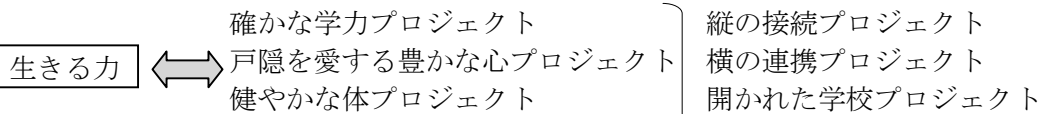
- ①自ら気づき、考え、進んで学ぶ人になろう
- ②豊かな心を養い、思いやりのある人になろう
- ③心身ともに健全な、逞しい人になろう
- ④戸隠に深くかかわり、戸隠を愛する人になろう

3. 学校経営の方針

○生きる力を身につけた戸隠を愛する子どもの育成をめざし、縦の接続と横の連携を図りながら、開かれた学校づくりを行う

4. 具現の基盤をなす7プロジェクト

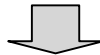
五ヶ年計画
三年目



5. 昨年度の課題と本年度の重点

学校評価・アンケートから捉えた課題（22年度～）

- ・家庭学習のあり方を含め、学習指導の充実
- ・個別指導の時間を確保し、学力の向上を
- ・将来の生き方を見据え、自立していく力の育成を
- ・人との関わり方等、体験学習を通しての人間関係力と心の醸成を
- ・生徒、保護者が相談しやすい学校体制への転換を



本年度の重点

- ①個の支援体制を明らかにし、個別の支援を行う。
- ②学力支援の方法や家庭学習のあり方を吟味し、学力向上を推進する。
- ③体験学習や道徳、進路等の関連を図り、キャリア教育を確立する。
- ④人との関わりの中で、肯定的な自己理解と自己有用感の獲得を図る。
- ⑤生徒のつぶやきや申し出に気を配り、初期対応をていねいに行う。
- ⑥生徒が創る学校づくりのあり方を提示し、生徒会活動の充実を図る

6. 評価推進計画

- 5月 プロジェクト活動計画および学校評価計画の審議
- 7月 前期保護者アンケート実施
1学期生徒授業評価実施
- 8月 前期保護者アンケートの結果分析と改善策の審議
- 9月 1学期生徒授業評価の結果分析と対応策の審議
(10月 市教委学校評価アンケートの実施 3月 本校の自己評価を加味し、市教委へ報告)
- 12月 後期保護者アンケート実施 2学期生徒授業評価実施 職員学校自己評価の実施
- 1月 学校自己評価、授業評価、保護者アンケートの結果分析と改善策の審議
学校自己評価書を青少年育成委員に送付
- 2月 青少年育成委員会での学校関係者評価の実施
- 3月 学校自己評価報告書の作成、保護者及び関係各所への送付

7. 本年度重点評価 ◎学校全体の重点

A (十分達成) B (概ね達成) C (やや不十分) D (不十分)

最終年度到達目標	本年度の重点	具現の方策・取り組み	取り組みによる生徒の姿	評 価		改善策 等	
<p><確かな学力P> 自ら気づき、考え、進んで学ぶ生徒</p>	◎個の支援体制を明らかにし、個別の支援を行う。	TT教科を拡大し個別の支援を強化する。	・分かる喜びを味わい粘り強く課題に取り組めるようになる。	A 0% C 18%	B 82% D 0%	・個に寄り添う学習形態の確立。 (支援内容、役割分担の明確化)	
		生徒が相談できる時間を設け、個に応じた対応を行う。	・自分の課題(できない問題や質問)がわかり、課題を解決しようとする。	A 27% C 0%	B 73% D 0%	・「相談の時間」を活用した個々の補完学習の推進。	
		少人数学習の中で習熟度学習を推進する。	・課題を達成した喜びを感じ、さらに意欲的に取り組もうとする。	A 9% C 9%	B 82% D 0%	・少人数学習での習熟度学習の検討、実施。 ・授業内での生徒との交流時間の確保。	
	◎学力支援の方法や家庭学習のあり方を再吟味し、学力向上を推進する。	学力向上に向けた支援内容の充実を図る。	・学習支援の時間や個別相談の時間を利用して、今の自分の学力を高めようとする。	A 9% C 0%	B 91% D 0%	・学力向上推進プランに基づく指導体制の構築。 ・学習支援日のあり方と支援内容の再構築。	
		家庭学習の内容を検討し、新たな学習体制を整える。	・家庭学習で克己ドリルに取り組み検定試験に意欲的に取り組む。	A 9% C 18%	B 73% D 0%	・家庭学習における具体的な学習内容の提示 ・ドリルや補助問題集の有効活用。	
		相互参観旬間を設け、各自授業力の向上を図る。	・確実な課題把握の上に立った自己の追究について自己評価することができる。	A 18% C 9%	B 73% D 0%	・授業の3観点の見とどけのあり方の改善。 ・授業のねらいの提示と掲示。	
	<p><戸隠を愛する豊かな心P> 豊かな心を養いおもしろいのある生徒</p>	◎体験学習や道徳、進路等の関連を吟味し、キャリア教育として位置づける。	体験活動や進路学習と関連づけた指導の実践化を図る。	戸隠タイムを通して、将来の生き方を考え、自らの目標に向かって努力しようとする。	A 0% C 18%	B 82% D 0%	・「戸隠タイム」の全体計画の加除修正及び各学年の年間指導計画の見直し。
			人間関係力に視点をあてたスキル学習を実践する。	コミュニケーションスキルの基本・基本が身につく。	A 0% C 18%	B 82% D 0%	・人間関係力の向上をめざすスキル学習の充実。
戸隠と深くかわかり、戸隠を愛する生徒	◎体験学習との関わりの中で、肯定的な自己理解と自己有用感の獲得を図る。	自己肯定感や自己有用感に係わる道徳指導を行う。	体験学習を通して、自らの課題をどう克服していくかについて問うようになる。	A 0% C 18%	B 82% D 0%	・自己有用感につなげる「戸隠Week」の実践。	
<p><健やかな体P> 心身ともに健全な、逞しい生徒</p>	○指導内容の体系化を進め、指導計画を作成する。	本校独自の指導計画を完成させる。	・段階を経た指導が受けられることにより、見通しを持った活動ができる。	A 18% C 9%	B 73% D 0%	・指導計画による実践とPDCA体制の確立。	
		健康食育における家庭との連携を図る。	・共通の話題が増えて、家族間の信頼や理解が深まる。	A 27% C 18%	B 55% D 0%	・地域保健委員会の活動の充実。 ・小中連携による食育推進。	
		衛生委員・緑化委員の活動の充実とその自己評価を行う。	・自己評価を基に内容の精選をかさねることで、意欲的な活動に挑戦するようになる。	A 18% C 9%	B 73% D 0%	・健康教育に係る生徒評価を実施。	

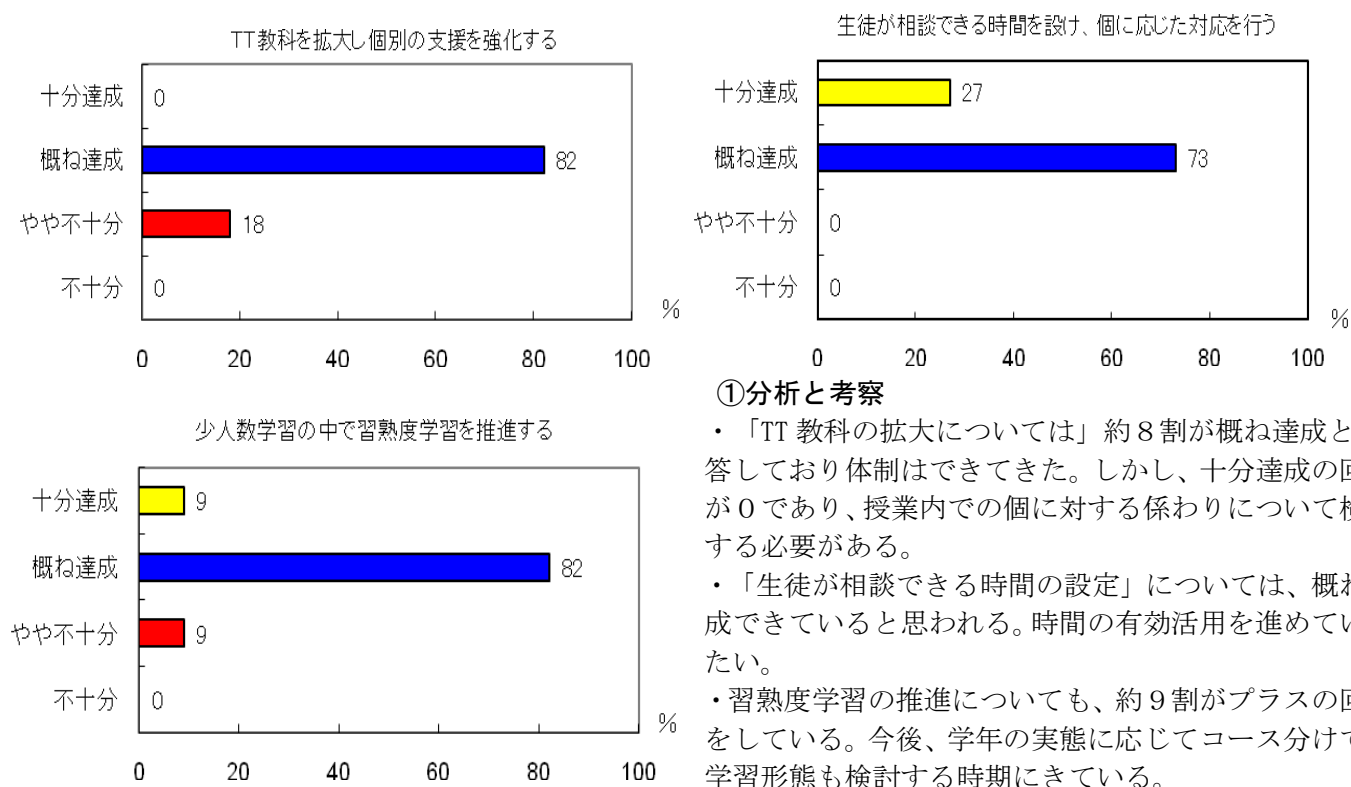
<p><縦の接続P> 児童生徒を共通理解し、小中で連携しながら、健全な人間関係を構築していく学校</p>	<p>○小中の連携として実施すべきことを決め出し計画的に実施する。</p>	<p>小学校と支援計画をすり合わせ、計画的に取り組む。</p>	<p>・小中が連携して行う取組が精査され、連携体制ができる。(職員)</p>	<p>A 0% C 55%</p>	<p>B 45% D 0%</p>	<p>・小中連携の内容を決めだしと年間行事計画への位置づけ。</p>
		<p>小中合同研修会を実施する</p>	<p>・共通の課題が明らかになり、同一歩調で取り組むようになる(職員)</p>	<p>A 0% C 55%</p>	<p>B 45% D 0%</p>	<p>・目的を明確にした研修会の実施。</p>
	<p>◎生徒のつづきや申し出に気を配り、初期対応をていねいに行う。</p>	<p>対応や支援における校内研修の機会を持つ</p>	<p>・生徒指導上の諸問題に対して、迅速で適切な対応できる。(職員)</p>	<p>A 0% C 45%</p>	<p>B 55% D 0%</p>	<p>・初期対応マニュアルの作成。 ・未然防止の視点での生徒指導計画の作成。</p>
		<p>校内相談体制の周知と保護者との対話機会を増やす</p>	<p>・生徒や保護者が気軽に相談できるようになる。</p>	<p>A 9% C 18%</p>	<p>B 73% D 0%</p>	<p>・生徒相談週間の設定。 ・生徒指導上の諸問題に対する未然防止という視点での月間指導内容の提示。</p>
<p><横の連携P> 家庭や地域と連携し、戸隠の自然や文化、そして、人との深いかわりから学ぶ教育を推進する学校</p>	<p>○学校、地域、家庭が連携した「戸隠教育」の推進を図る。</p>	<p>青少年育成委員会の充実を図る ・戸隠教育の骨子完成 ・学習バスの利用拡大 ・地区懇、学校関係者評価の充実</p>	<p>・戸隠の自然や文化、人とのかわりから学ぶとする意欲が生まれる。 ・地域の子は地域で育てようという意識が芽生える。(地域住民)</p>	<p>A 27% C 0%</p>	<p>B 73% D 0%</p>	<p>・戸隠の子どもを地域、家庭、学校で育てる「戸隠教育」の作成。 ・地域への提案、地域への協力のさらなる推進。</p>
		<p>スポーツ文化活動運営委員会及び地域学校保健委員会の設立</p>	<p>・自分にかかわってくれた地域の方々に感謝する気持ちを持つ</p>	<p>A 9% C 9%</p>	<p>B 82% D 0%</p>	<p>・戸隠weekを中核とする地域の方々との交流推進。 ・地域関係機関との連絡調整。</p>
		<p>J A支所、商工会等との連携を図る</p>	<p>・学校教育に関心を持ち協力しようとする意識を持つ。(地域住民)</p>			
<p><開かれた学校P> 学校評価の共通理解に立ち、学校、保護者、地域が連携して生徒を育てる開かれた学校</p>	<p>○学年だよりの内容の充実を図るとともに保護者の意見を集約する。</p>	<p>学年の取り組みや指導事項についてタイムリーに情報提供する</p>	<p>・学校の取り組みがよく分かると実感する。(保護者)</p>	<p>A 18% C 0%</p>	<p>B 82% D 0%</p>	<p>・学校便りによる指導の方向性の発信</p>
		<p>学校評価を受けた評価項目に改編する</p>	<p>・次年度の課題が明確になり、GDに反映される。(職員)</p>	<p>A 18% C 0%</p>	<p>B 82% D 0%</p>	<p>・年度途中での改善を図るPDCAサイクル化の推進。</p>
<p>職員と生徒の提案でよりよい学校づくりがなされる開かれた学校</p>	<p>◎生徒が創る学校づくりのあり方を提示し、生徒会活動の充実を図る。</p>	<p>生徒提案の活動を支援する中で、肯定的な自己理解につなげる</p>	<p>・生徒自身で創った活動が学校生活に生かされ意欲的に活動する。</p>	<p>A 9% C 18%</p>	<p>B 73% D 0%</p>	<p>・生徒が創る学校づくりの継続。</p>
		<p>生徒の活動から新たな伝統を創造していく</p>	<p>・生徒の活動に職員が協力していく活動が生まれる。(職員)</p>	<p>A 9% C 0%</p>	<p>B 91% D 0%</p>	<p>・生徒が創る学校づくりにおける職員支援体制の確立。</p>

8. 学校自己評価結果の分析と改善の方向

◎は学校全体の重点

(1) <確かな学力プロジェクト>

◎個の支援体制を明らかにし、個別の支援を行う。



①分析と考察

- ・「TT教科の拡大については」約8割が概ね達成と回答しており体制はできてきた。しかし、十分達成の回答が0であり、授業内での個に対する係わりについて検討する必要がある。
- ・「生徒が相談できる時間の設定」については、概ね達成できていると思われる。時間の有効活用を進めていきたい。
- ・習熟度学習の推進についても、約9割がプラスの回答をしている。今後、学年の実態に応じてコース分けでの学習形態も検討する時期にきている。

②次年度の向けての改善策

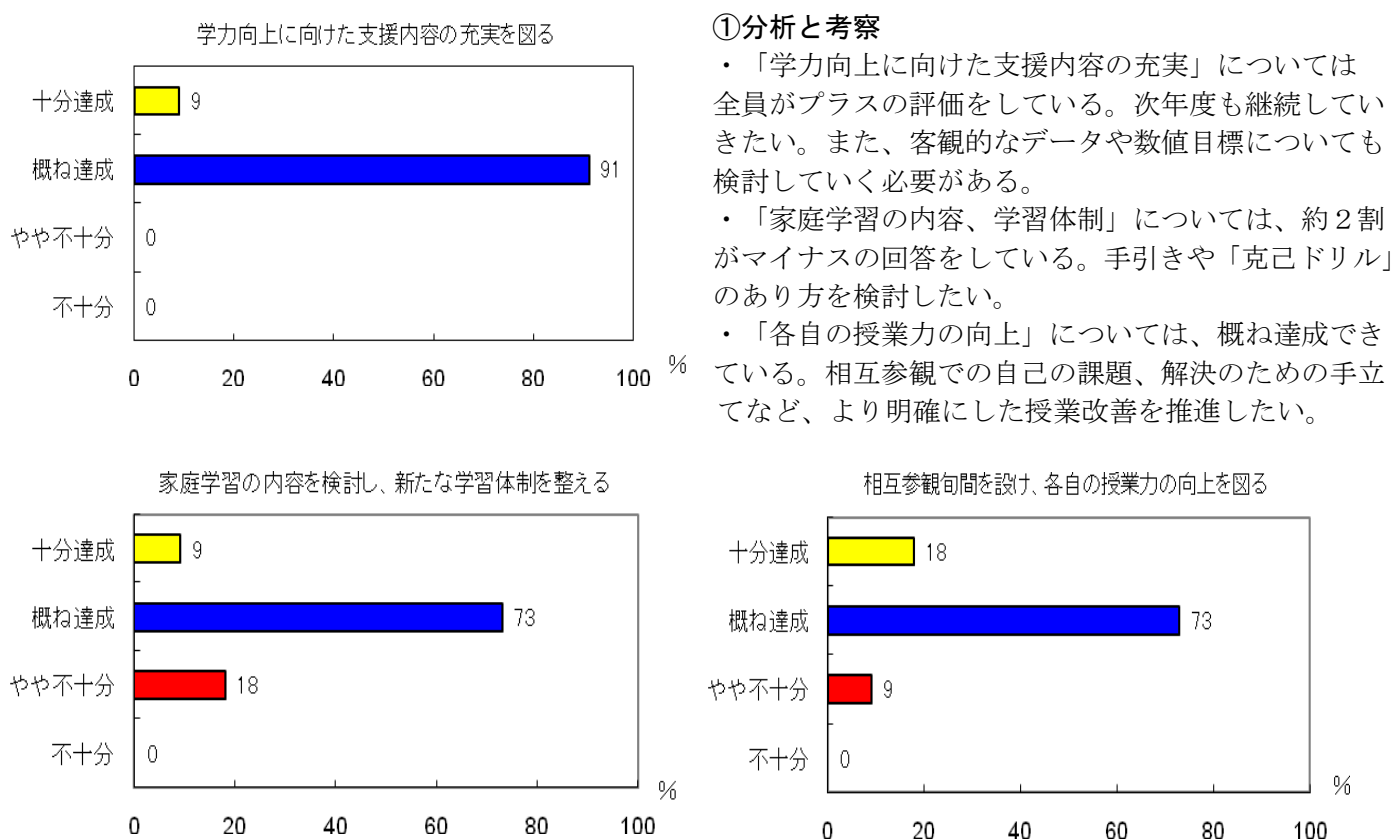
○実態に応じた学習形態での個別支援の充実を図る。

- ・個に寄り添う学習形態の確立。
- ・相談の時間を活用した個々の補完学習の推進。

○少人数学習やTT授業での個別指導を推進する。

- ・個に対応するTT授業の推進。
- ・コース制による習熟度学習の検討。

◎学力支援の方法や家庭学習のあり方を再吟味し、学力向上を推進する。



①分析と考察

- ・「学力向上に向けた支援内容の充実」については全員がプラスの評価をしている。次年度も継続していきたい。また、客観的なデータや数値目標についても検討していく必要がある。
- ・「家庭学習の内容、学習体制」については、約2割がマイナスの回答をしている。手引きや「克己ドリル」のあり方を検討したい。
- ・「各自の授業力の向上」については、概ね達成できている。相互参観での自己の課題、解決のための手立てなど、より明確にした授業改善を推進したい。

②次年度の向けての改善策

○学力向上推進プランに基づく指導体制の構築を図る。

- ・個に寄り添う学習形態の確立（授業での生徒との関わり）・学習支援日のあり方と支援内容の再構築。
- ・客観的データの分析と数値目標の達成

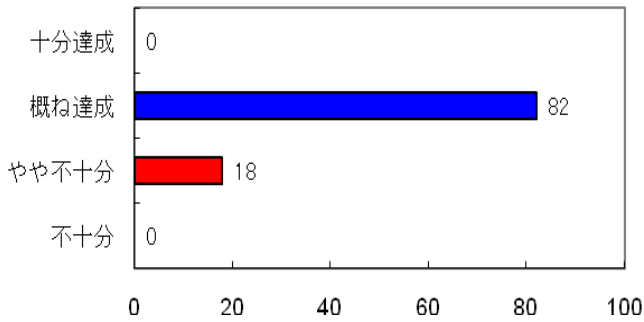
○家庭学習の手引きを作成し、取り組みの具体を提案する。

- ・家庭学習における具体的な学習内容の提示
- ・個の取り組みについての家庭との連携
- ・「克己ドリル」や「問題集・参考書」の有効活用

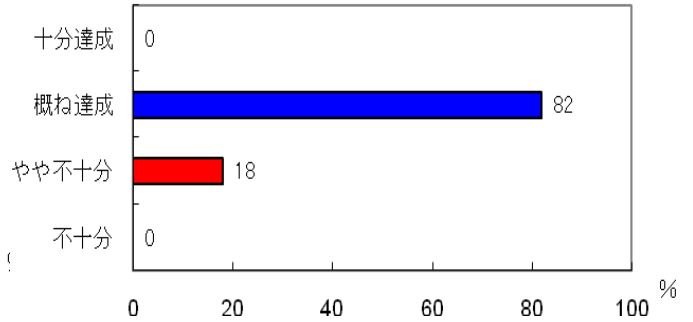
(2) <戸隠を愛する豊かな心プロジェクト>

◎体験学習や道徳、進路等の関連を吟味し、キャリア教育として位置づける。

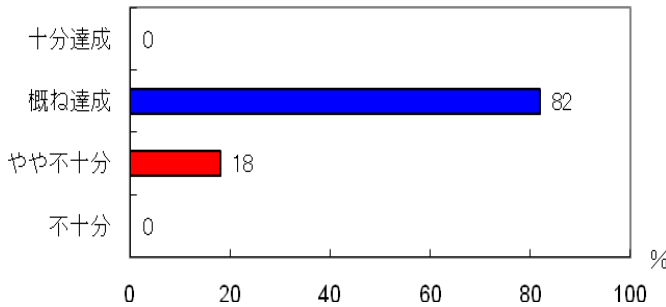
体験活動や進路学習と関連付けた指導の実践化を図る



人間関係力に視点をあてたスキル学習を実践する



自己肯定感や自己有用感に係わる道徳指導を行う



①分析と考察

- ・「体験活動や進路学習と関連付けた指導」については、約2割がやや不十分と回答していた。キャリア教育に対する職員の意思統一がもう一步であった。
- ・「人間関係力に視点あてたスキル学習」についても上記と同様の評価であった。トラブルに対して自ら解決しようとする力が弱い感がある。
- ・「自己肯定感や自己有用感に係わる道徳指導」についても同様の評価であった。学級により取り組みに差が生じたように思う。

②次年度の向けての改善策

○心の醸成を踏まえ、キャリア教育についての共通理解を図り、独自の取り組みを確立する。

- ・戸隠タイムの全体計画の加除修正及び各学年の年間指導計画の見直し
- ・「戸隠week」当日までの指導計画の細案作成

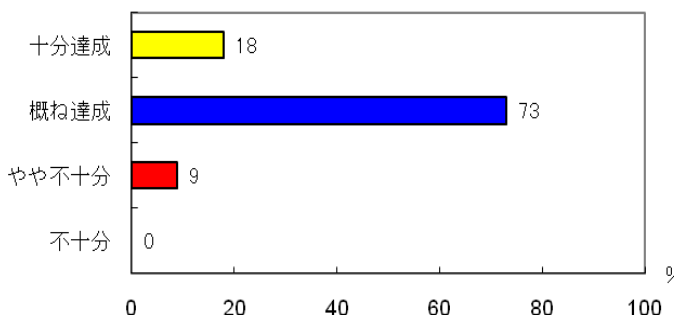
○人との関わりを通して、自己有用感の獲得を図る。

- ・自己有用感につなげる「戸隠Week」の実践
- ・道徳の指導内容の検討と実践
- ・人間関係力の向上をめざすスキル学習の充実

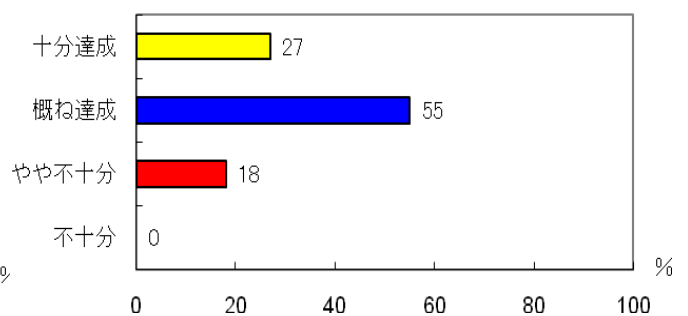
(3) <健やかな体プロジェクト>

○指導内容の体系化を進め、指導計画を作成する。

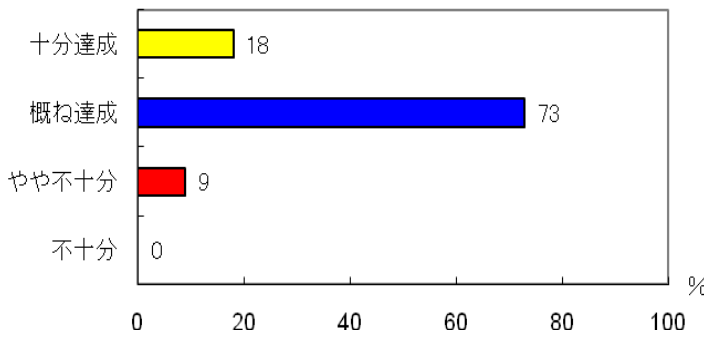
本校独自の指導計画を作成する



健康食育における家庭との連携を図る



衛生委員・緑化委員の活動の充実とその自己評価を行う



①分析と考察

- ・「本校独自の指導計画作成」については、約9割りがプラスの評価をしたように、すでに作成済である。
- ・「健康食育における家庭との連携」については約3割が十分達成と回答しているが、約2割がやや不十分としている。このズレを検証していく必要がある。
- ・「関係委員の活動の充実と自己評価」については、十分達成を含め約9割がプラスの回答をしており達成できている。継続的な活動を期待したい。

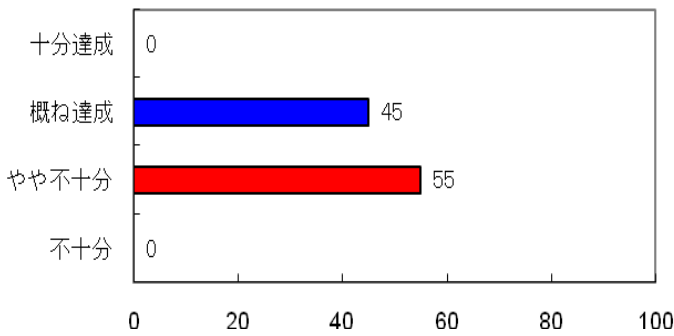
②次年度の向けての改善策

- 地域保健委員会での活動を通して、保、小、中および家庭との連携を推進する。
 - ・小中連携による食育推進
 - ・各校の実践等の情報交換
- 健康教育に係る生徒評価を実施する。
 - ・実践の積み上げと資料の累積

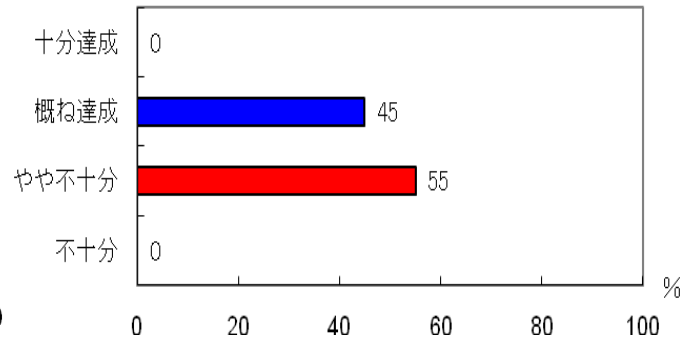
(4) <縦の接続プロジェクト>

- 小中の連携として実施すべきことを決め出し計画的に実施する。
- ◎生徒のつぶやきや申し出に気を配り、初期対応をていねいに行う。

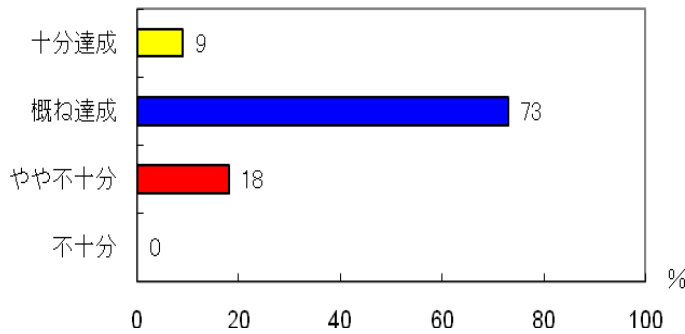
小学校と支援計画をすり合わせ、計画的に取り組む



小中合同研修会を実施する



校内相談体制の周知、保護者との対話機会の充実



①分析と考察

- ・「小学校と支援計画のすり合わせ」については55%がやや不十分と回答している。打ち合わせを含め計画性に欠けた面があった。
- ・「小中合同研修会」についても同様の回答であった。見通しをもった取り組みができなかった。
- ・「相談体制の周知、保護者との対話」については、約9割のプラス回答があるもの、約2割がやや不十分と回答している。保護者の思いをきちんと受け止め丁寧に応えるという点で課題があった。

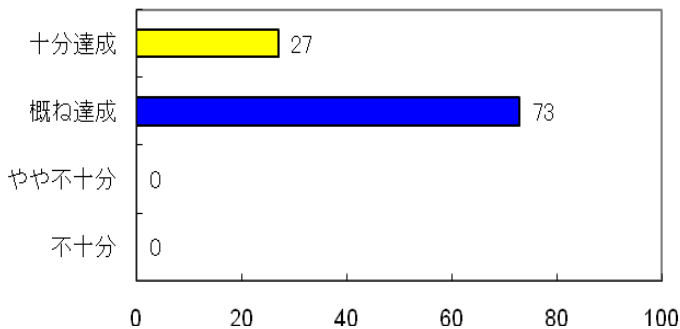
②次年度の向けての改善策

- 小中連携の内容を決めだし、年間行事計画に位置づける。
 - ・小中合同研修会の内容の見直し
 - ・小学校の生徒指導主任との情報交換
- 生徒の申し出をきちんと受け止め、迅速で丁寧な対応をする。
 - ・生徒相談週間の設定
 - ・生徒指導上の諸問題に係る初期対応マニュアルの作成
 - ・未然防止の視点からの月間指導内容の提示
 - ・校内相談体制の周知と相談窓口の明確化

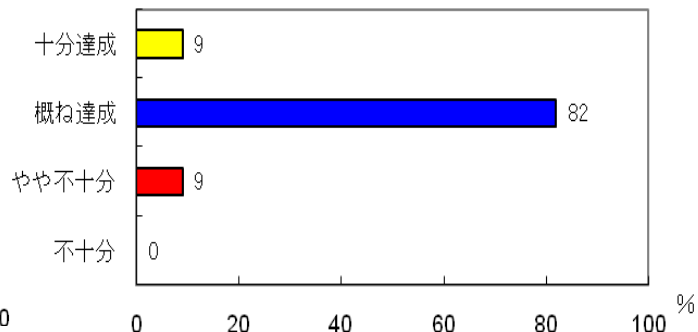
(5) <横の連携プロジェクト>

○学校、地域、家庭が連携した「戸隠教育」の推進を図る。

青少年育成委員会の充実を図る



地域関係組織の設立及び関係機関との連携



①分析と考察

- ・「青少年育成委員会の充実」については、連携体制の整備も進み概ね達成できている。地域への提案、地域への協力を一層推進したい。
- ・スポーツ・文化活動運営委員会、地域保健委員会の設立等もあり、「地域関係組織の設立や関係機関との連携」についても、プラスの評価であった。ただ、戸隠Weekでの連絡調整では、反省すべき点もあり、次年度改善していかねばならない。

②次年度の向けての改善策

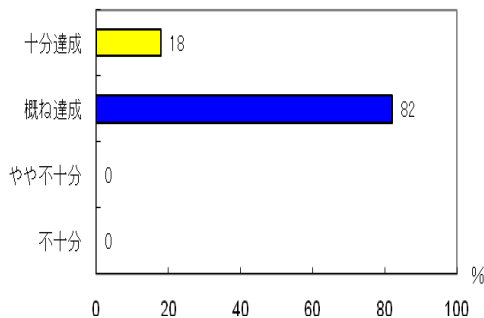
- 青少年育成委員会を中心に、戸隠の子どもを地域、家庭、学校で育てる「戸隠教育」を作成する。
 - ・戸隠weekを中核とする地域の方々との交流推進
 - ・地域関係機関との連絡調整。(スポーツ・文化活動運営委員会、地域保健員会 JA 商工会等)
 - ・「戸隠教育」の成案作成

(6) <開かれた学校プロジェクト>

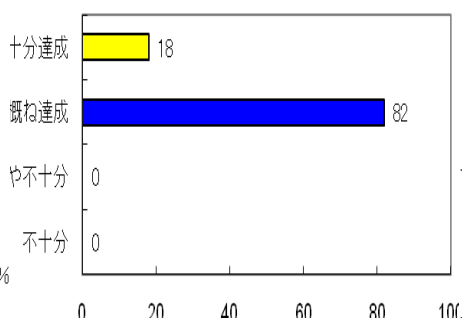
◎生徒が創る学校づくりのあり方を提示し、生徒会活動の充実を図る。

○学年だよりの内容の充実を図るとともに保護者の意見を集約する。

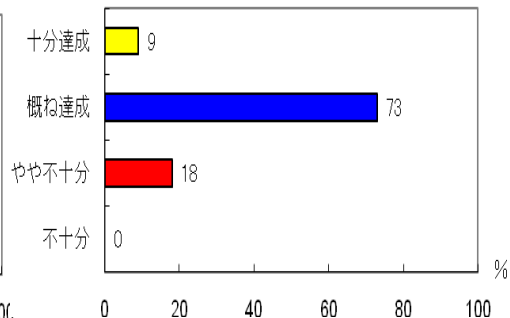
学校評価を受けての評価項目に改編する



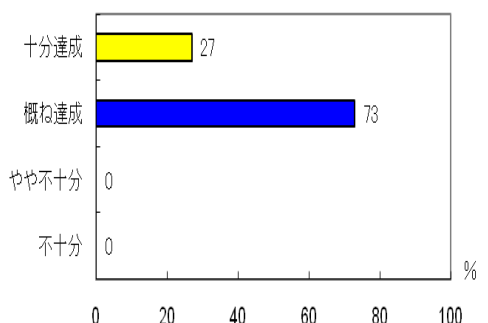
学年の取り組みや指導事項について、タイムリーに情報提供する



生徒提案の活動を支援する中で、肯定的な自己理解につなげる



生徒の活動から新たな伝統を創造していく



①分析と考察

- ・「学校評価を受けての評価項目改編」については、概ね達成できた。評価項目については、次年度に向けての学校関係者評価をへて改編していきたい。
- ・「生徒提案の活動の支援」については約20%がマイナス評価であった。活動を側面からバックアップする体制という点で課題があり、生徒の成就感までつなげることができなかった。
- ・「タイムリーな情報提供」と「生徒の活動からの伝統づくり」については概ね達成できた。

②次年度の向けての改善策

- 生徒が創る学校づくりの継続とそれに係る職員の支援体制を確立する。
 - ・生徒提案の活動の継続
 - ・生徒の活動による伝統の深化
- 年度途中での改善のPDCAサイクル化を進めるとともに評価項目の見直しを行う。
 - ・係案の共通理解、進捗状況の把握、見直し、再提案
 - ・評価項目の見直し
 - ・学校便りの発行

9 学校評価保護者アンケート表

(1) 学校目標と本年殿の重点

学校教育目標	『己に克つ』という強い意志を持ち、粘り強く最後までやり抜
本年度の重点	①個の支援体制を明らかにし、個別の支援を行う。 ②学力支援の方法や家庭学習のあり方を吟味し、学力向上を推進する。 ③体験学習や道徳、進路等の関連を図り、キャリア教育を確立する。 ④人との関わりの中で、肯定的な自己理解と自己有用感の獲得を図る。 ⑤生徒のつぶやきや申し出に気を配り、初期対応をていねいに行う。 ⑥生徒が創る学校づくりのあり方を提示し、生徒会活動の充実を図る。

(2) 保護者学校評価アンケート集計

*評価の目安 A…よくあてはまる B…ややあてはまる C…あまりあてはまらない D…全くあて

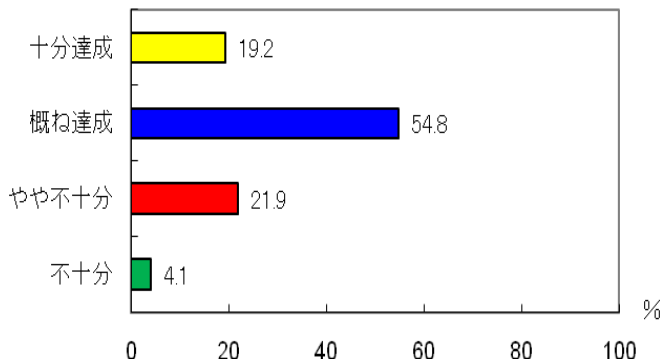
項 目	評 価			
	A	B	C	D
学校は 学校経営の基本方針をわかりやすく伝えている。	19.2	54.8	21.9	4.1
①学校は 少人数学習やTTに加え、放課後に相談の時間を設定し、個に応じた学習支援に取り組んでいる。	11.0	43.8	38.4	5.8
②学校は 学習支援日の支援内容や家庭学習の仕方の改善し、学力向上に努めている。	12.3	41.1	41.1	5.5
③学校は キャリア教育を通して、社会生活を見据えた進路学習に取り組んでいる。	12.3	50.7	32.9	4.1
④学校は 生徒の良い面をとらえ、必要とされる存在であることを認識させている。	15.1	53.4	27.4	4.1
⑤学校は 生徒の相談や悩みごとに、迅速・丁寧に対応している。	12.3	37.0	41.1	9.8
⑥学校は 生徒が創る活動を大事に取り上げ、学校全体で取り組んでいる。	15.1	56.2	26.0	2.7
学校は 家庭との連携を図り、健康食育を進めている。	17.8	64.4	16.4	1.4
学校は 戸隠の子どもを育てるという視点で 家庭、地域、学校の連携を進めている。	20.5	57.6	17.8	4.1
お子さんは 楽しく登校できている。	37.0	52.1	5.8	4.1
お子さんは さわやかな挨拶ができる。	23.3	54.8	20.5	1.4
お子さんは 家庭での学習にも取り組んでいる。	15.1	45.2	35.6	4.1
お子さんは 学校行事や課外活動に意欲的に参加している。	37.0	49.3	11.0	2.7

10 学校評価保護者アンケート結果の分析と改善の方向

(アンケート回収率 1年 89.5% 2年 93.8% 3年 78.8% 全体 86.9%)

(1) 学校経営方針

学校は 学校経営の基本方針を分かりやすく伝えている



1 分析と考察

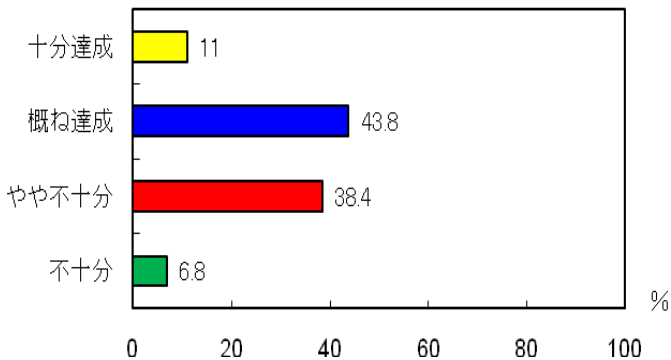
・年度当初に、学校教育基本計画を配布するとともに学校長が説明を行ったが、不十分、やや不十分と回答した保護者が昨年度より約10%増加した。指導の方向や行事について転換期を迎えたこともあり、説明不足につながったと思われる。

2 今後に向けての改善策

・本年度の重点を含めて取り組みの徹底を図るとともに、次年度に向けて課題を明らかにしていく。

(2) 確かな学力プロジェクト

学校は 少人数学習やTTに加え、個に応じた学習支援に取り組んでいる。



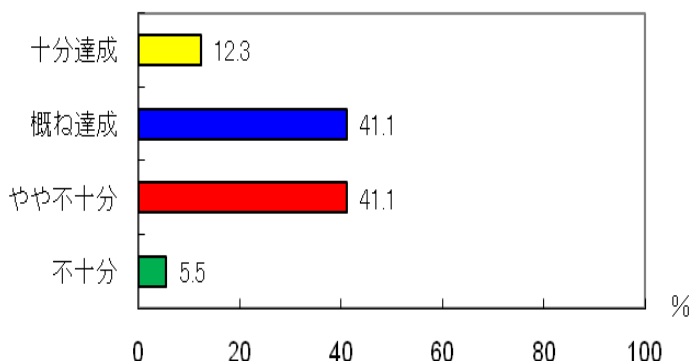
1 分析と考察

・プラスの評価が約55%ということで厳しい評価であった。相談の時間を利用しての個別の学習支援を行ってきたが、さらなる改善が求められている。

2 今後に向けての改善策

・少人数学習集団での習熟度学習についても検討実施していく。
・別室指導等を含め、個に寄り添う学習形態を確立する。
・相談の時間を活用した補完学習を推進する。

学校は 学習支援日の支援内容や家庭学習の仕方を改善し学力向上に努めている。



1 分析と考察

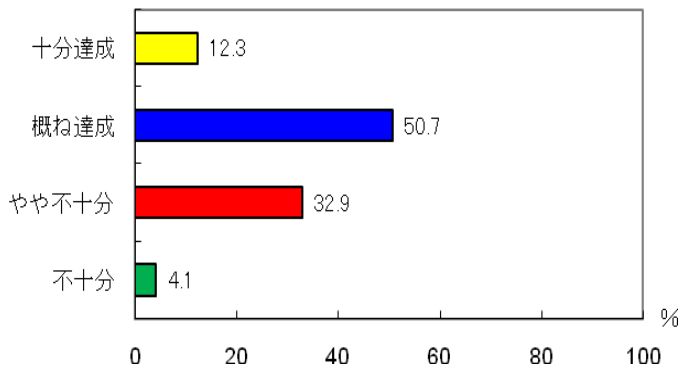
・学力向上については、約47%がマイナス評価をしており、家庭学習のあり方を含め大きな課題である。また、3年生を中心に質問する生徒が増えてきているが、1、2年生の段階で習慣づけていく必要があると思われる。

2 今後に向けての改善策

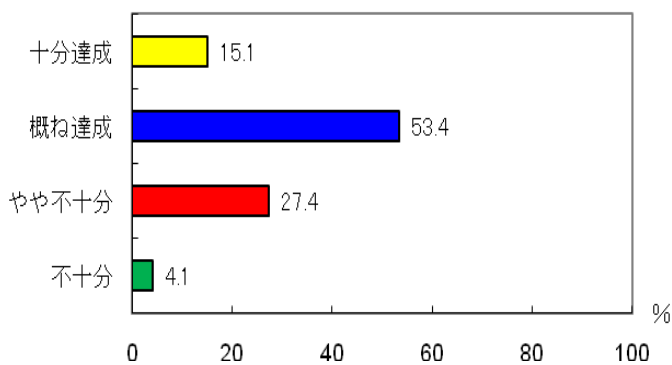
・学力向上推進プランを作成し、新たな指導体制を構築する。
・学習支援日のあり方と支援内容の見直しを行い、体制の再構築化を図る。
・家庭学習の手引きを作成し、取り組みの具体を提示する。
・克己ドリルや各教科の問題集の有効活用を図る。

(3) 戸隠を愛する豊かな心プロジェクト

学校はキャリア教育を通して、社会生活を見据えた進路学習に取り組んでいる。

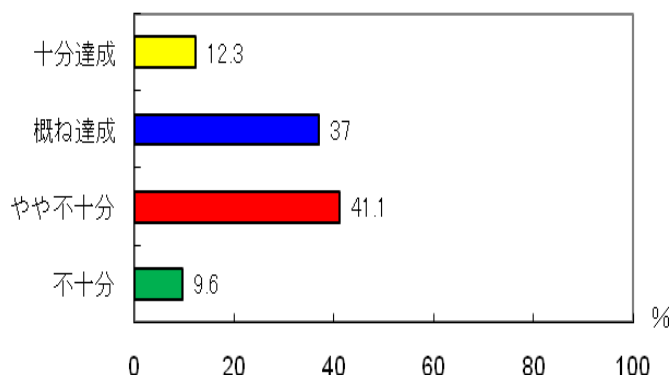


学校は生徒のよい面をとらえ、必要とされる存在であることを認識させている。



(4) 縦の接続プロジェクト

学校は生徒の相談や悩みごとに、迅速・丁寧に対応している。



1 分析と考察

・約63%がプラスであったが、約37%がマイナス回答であった。今年度からのスタートであったが、ねらいや活動内容等について、十分な説明がなされていなかった面があったと思われる。

2 今後に向けての改善策

- ・各学年の「戸隠タイム」の全体計画及び各学年の年間指導計画の見直しを図る。
- ・「戸隠Week」の中で、自己有用感につながる経験をさせる
- ・人間関係力の向上をめざすスキル学習の充実および発信できる力の育成をめざす。
- ・今年度の「戸隠Week」の反省を生かしより充実した体験学習にしていく。

1 分析と考察

・十分達成と概ね達成を合わせた評価が68.5%であるが、31.5%がマイナス評価であった。

・道徳や人権同和教育等で、肯定的な自己理解につなげる授業を行ってきたが、人間関係のトラブルが何件もあり、実践という面で課題が残った。

2 今後に向けての改善策

- ・学校生活の中で、自己の役割を果たすことや他者との交流の中で、自己有用感を実感させていく。
- ・学級集団の中でそれぞれの存在が認められ、生徒間で批評していける学級づくりを推進する。

1 分析と考察

・不十分とやや不十分を合わせると約51%のマイナスと評価があり、改善が求められている。相談の時間を設けたが、効果的な活用になっていないという面もある。

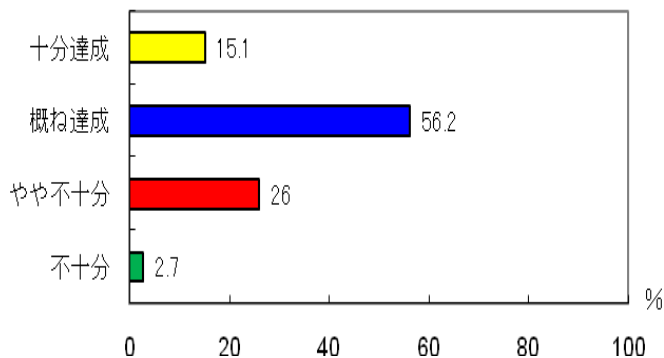
・部活や進路など教師の意図するところが伝わらず生徒の不信感につながった事もあった。

2 今後に向けての改善策

- ・生徒から申し出や問いかけに対して、最優先で対応することを徹底する。
- ・相談の時間の有効活用を図る。
- ・生徒指導上の諸問題に係る初期対応マニュアルの作成し迅速に動けるようにする。
- ・年度当初のオリエンテーションで「よろず相談」のフォローを配布し、生徒に周知する。

(5) 開かれた学校プロジェクト

学校は、生徒が創る活動を大事に取り上げ、学校全体で取り組んでいる



1 分析と考察

・約 71%がプラスの評価をしていた。生徒会が中心となり、伝統づくりということで「あいさつ」に力を入れて活動し成果が出てきていると思われる

・生徒たちの活動実態が、次年度以降も引き継がれていくよう配慮していく必要がある。

2 今後に向けての改善策

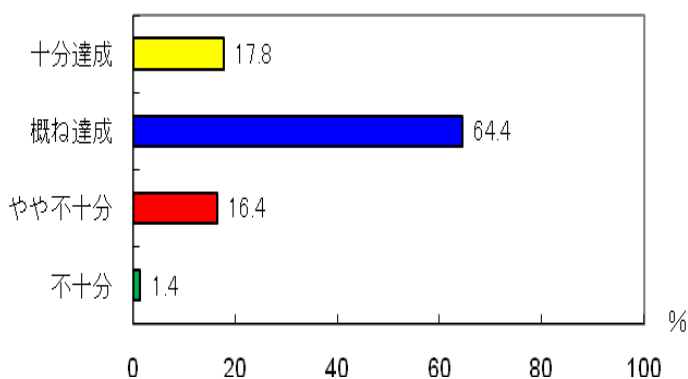
・生徒会で活動を創造し、直接、全校生徒に発信していく場を設定する。

・生徒提案の活動の充実を図るとともに活動を支える職員体制を確立する。

・あいさつの深化に加え、次年度の生徒会で伝統となる活動を創造させたい。

(6) 健やかな体プロジェクト

学校は、家庭との連携を図り、健康食育を進めている



1 分析と考察

・概ね達成を含め、82%がプラスの評価をしている。給食試食会後の学習会や教養部との連携事業がよい評価につながったと思われる。

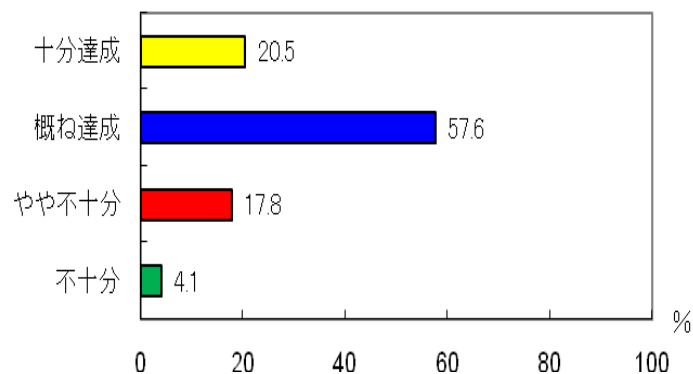
2 今後に向けての改善策

・健康食育ブランドデザインに基づく活動を推進するとともに、健康教育の生徒評価も検討していく。

・衛生委員会の活動のさらなる充実を図る。
・地域保健委員会での活動を通して、保、小、中および家庭との連携を推進する。

(7) 横の連携プロジェクト

学校は戸隠の子どもを育てるという視点で、家庭、地域、学校の連携を進めている。



1 分析と考察

・概ね達成を含め、約 78%がプラスの評価をしており、家庭、地域との連携体制ができてきている。

・家庭、地域の連携を進める上では、それぞれに負担をお掛けすることが多くなる。依頼等、早い段階でお願いしておくことを徹底したい。

2 今後に向けての改善策

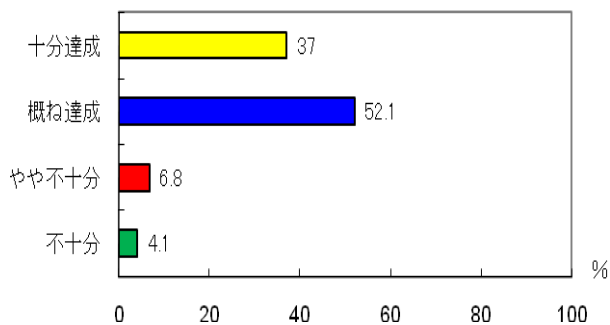
・学校ではどんなことを目指し、どんな取り組みをしているのか、家庭に協力してもらいたいことは何か等、学校だよりで広報していく。

・生徒の成果や課題については、学級PTAできちんと説明していく。

・「戸隠教育」の成案を受け、どんな力をどう付けていくか決め出し実践に移す。

(8) 生徒の生活状況

お子さんは 楽しく登校できている



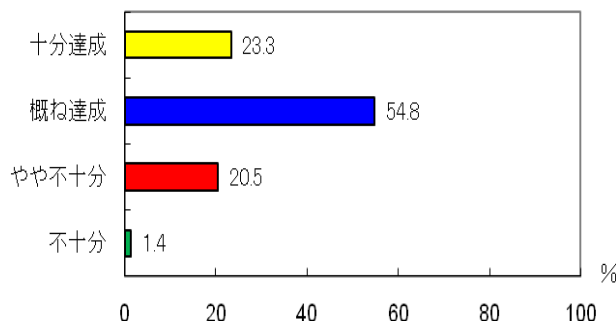
1 分析と考察

・約90%がプラスの評価をしており、生徒たちは、楽しく登校できていると思われる。ただ、やや不十分、不十分と回答した家庭が約10%あり、個々の状況を把握する必要がある。

2 今後に向けての改善策

- ・友人関係や学習状況、部活動の取り組みについて共通理解を図り、変化に対して迅速に対応する。
- ・生徒個々の関心がどこに向いているか定期的に確認し学年で共有する。

お子さんは さわやかな挨拶ができる



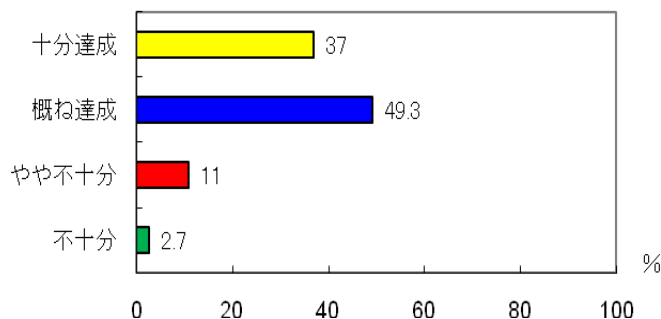
1 分析と考察

・78%がプラスの評価している。来校者からはたいへんよいという評価ももらっているが、ここに来て、生徒に意識に差が出てきており、個人差が伺える。

2 今後に向けての改善策

- ・心が伝わる挨拶や相手意識にたった挨拶のあり方を問い実践していく。
- ・職員の側面からの支援や意識付けを継続的に行っていくようにする。
- ・家庭での子育てマニフェクトを作成し、連携した取り組みにしたい。

お子さんは 学校行事や課外活動に意欲的に参加している



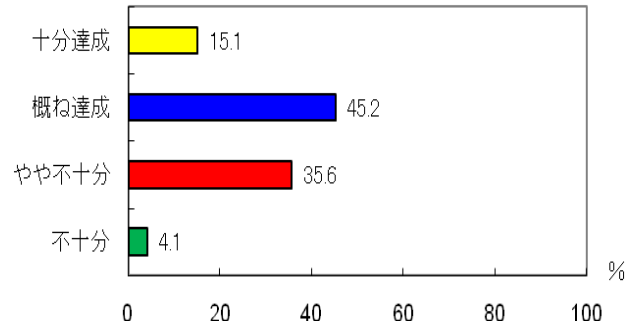
1 分析と考察

・約40%が不十分、やや不十分と回答しており、家庭での学習のあり方の改善を望んでいる。
・やる気になって取り組む生徒と意識がもう一步の生徒の二極化の状況がある。どう意識付けていくか検討していく必要がある。

2 今後に向けての改善策

- ・意欲的に学習できている生徒への働きかけを継続する。
- ・生徒がめあてを持って、家庭学習に取り組めるような方策を構築する。
- ・宿題の具体化と提出ノートの充実を図る。

お子さんは 家庭での学習にも取り組んでいる。



1 分析と考察

・十分達成が37%あるものの、約14%がマイナス評価をしている。今後の学校行事や部活動についても活動のあり方を見直し、個々の生徒の共通理解を図る必要がある。
・部活動については、保護者会との連携を強化したい。

2 今後に向けての改善策

- ・行事の中で家庭や地域に協力いただくことについては、早めに提示し混乱が生じないようにする。
- ・部活動と社会体育等の関係については、スポーツ文化活動検討委員会を通して共通理解を図る。
- ・部活での個々の活動状況は、顧問がきちんと把握する。

(1) 学校の現状

- めざす生徒の姿で「自ら気づき、考え、進んで学ぶ人になろう」というスローガンは、方向としてたいへんよい目標である。戸隠の子どもは、自分の意見を出せる子どもが少ないと聞いている。是非、自分の意見を積極的に表現できる子どもたちに育ててほしいと思う。
- 用事があってグラウンドに行った時など、積極的に挨拶をしてくれるので、全体的によい雰囲気を感じる。
- 子どもフェスティバルに参加した生徒を見る中で、同じグループの小学生の面倒をよく見ていたことから豊かな心を持った思いやりのある生徒が多く育っていると思った。
- 縦、横の連携を図りながら、生まれ育った戸隠を愛しながら、心豊かな逞しい子どもたちを育てようという思いが感じられる。
- 生徒会を中心としたあいさつ運動が成果をあげている。文化祭の折に『「こんにちは」の清々しいあいさつが印象に残った。地域の方からも中学生のあいさつはよくなったという声が聞かれるようになった』という話が聞かれた。
- 中学生になるとあいさつをしなくなる子どもが多くなると聞きます。せっかく小学校で取り組んでいるのだから、小中の連携として取り組んでほしいと思う。
- メモをとれない子が多い。自分なりのノートを作るくせをつけたい。メモやノートの取り方を教えれば理解力、思考力がつくし、聞くという態度にもつながる。中1できちんと教えたい、また、人の話の聞き方を身につけさせることが、結果として学力向上につながる。

(2) 今年度の重点的な取組について

- 「個の支援体制を明らかにし、個別の支援を行う」について、各個人、得意な科目、不得意な科目があると思う。得意な科目を生かしながら、不得意な科目を克服するための支援ができるとよい。
- 「克己ドリル」は学習したことがすぐに結果として見えるのはよい。自分が決めた量で取り組むようになった。
- 学習は一番大切なことだが、生きていくためには、自立することや人との関わり方等も大事である。そういう面でも体験学習は大変よいと思った。
- 戸隠Weekの地域貢献活動は好評だった。生徒が設置してくれた案内看板等を見て、いい取り組みであるとか、是非、またという声もあった。戸隠を知るといふ活動にもつながるので継続したい。
- 将来を見据えた自分づくりが大切。喜びが感じられれば、働くようになる。戸隠タイムは将来を見つめさせるきっかけになるのではないか。将来の目的＝学習する目的になってくるとよいのではないか。
- 体験学習の期間を短期としなかったことは、生徒にとって必要なことだったと思う。実体験が今の時代のは大切だと思う。
- 生徒たちは、戸隠weekの4日間をよく頑張った。4日やればおみやげ（得るもの）がある。それを認めてあげることが、生徒の自己肯定感につながる。ただ、生徒の輸送面や職場体験の各事業所1名ということで、どの程度厳しくすればよいかの判断が難しいなど、今後、検討すべき課題もある。
- 個別支援の保護者評価が低いのが、三者懇談にきて、先生方がよく生徒を見ていてくれていることが分かった。保護者は見られていることが分からないので、1ヶ月に1度くらい先生から親に連絡をし、先生と親が問題を共有していけばよいのではないか。
- 体験学習はよかったと思うが、将来の生き方・進路を考えるにあたり、自立していく力を育成するためにどんな考え方があるのか分かりづらい。
- 重点目標が多数あり過ぎて、教師も生徒も実現に向け大変ではないかと思う。
- 個別は分かるところから始め、できた喜びを味わわせたい。学習のめあてを持たせる取り組みはよい。目標を決められない子をどうしていくかも大事である。

(3) 地域や保護者との連携について

- 戸隠Weekで知らない地区に行き、公会堂の掃除をしたり畑の草取りをしたりしてもらった。地区の大人たちも生徒もお互いに交流ができ、また、知らなかった地区を少しであるが知ることでよくなったと思う。
- 地域と関わりを持つことは大切であり、戸隠Weekの取組はたいへんよいことである。継続してほしい。
- 今年度3年生の地域貢献体験学習で4名の女子生徒に障子の張替をしていただいた。初の体験だったと思うが楽しみながらやっていた。お年寄りとの交流もあり、とても良いと思った。今後も継続していただきたい。

○挨拶は大変よくやっている。どんどん焼き等、地区の行事に出てくださいよかった。また、体験学習で作業をしていただき地域の人たちにも喜ばれた。

●特定の人とのコミュニケーションは問題ないと思うが、とっさの場合は慣れていない。定期的に地域とのかわりを持つ機会を増やしたい。

●地域のある施設を多いに活用し、連携していくべきだと思う。

(4) その他 学校の活動全般について

○少子高齢化の中で、将来を担う遅く生き抜くための指導をされていると感じた。今後もお願いしたい。

○学校公開で行った時、学校全体が大変きれいに清掃されていたことに感心しました。きちっと教育が行き届いているのだろうとうれしく思った。

◇学校関係評価にあたり評価書をみせていただき、学校の取り組み等の内容が初めてわかった状態なので反省し、次年度からは興味を持って見守っていきたい。

(5) 学校への要望

□今の子はドライ。集中して取り組むことが少ないので、集中できる場づくりを期待する。

□かつてはゆとりと言った。家庭、地域、学校が分担して子を育てるという雰囲気があったが、今は崩壊した。それぞれが何をやるかが不明確になり、すべて学校へと集中してくる。ある程度学校がイニシアティブをとり、家庭や地域にお願いすることはお願いすべきだ。学校はそれを見極め家庭への働きかけや支援のあり方を考えていってほしい。

□若い人でせつかく入社したのに、こなくなってしまうという現実がある。親に経済力あり、自分で何かしなくてはというものが無い。そういう若者がでてきているということも心にとめて指導してほしい

□親が何を教えたらいいか、なかなか見えてこない。我々の頃は、経済活動の数字だった。今は子どもが迷ったときの判断基準を教えることか？ もう一つは、将来の目標を持たせることか。目標が持てれば向かっていける。暫定的にでもよいので、将来に目を向けた選択を考えさせたい

□今年度から保・小・中の学齢期間を同一集団で生活することになった。人間関係力の課題を含め、それぞれの保護者が一緒になって子育てをするという視点にたち、地域で育てていく体制を構築していくことも検討したい。

1 2 次年度に向けた学校の取組の方向

平成 23 年度 学校評価・アンケートから捉えた課題

- ・学力向上に向けた支援と家庭学習の充実を
- ・個々の生徒への支援の明確化を
- ・戸隠Weekでの家庭、地域、学校における協力体制の構築を
- ・生徒指導上の諸問題への迅速な対応と未然防止の強化を
- ・生徒が創る学校づくりへの職員のバックアップ体制の強化を

平成 24 年度の重点

- ①学力向上推進プランに基づく指導体制の構築を図る。
- ②少人数学習やTT授業での個別指導を推進する。
- ③心の醸成を踏まえ、キャリア教育についての共通理解を図り、独自の取り組みを確立する。
- ④生徒の諸問題に気を配り、未然防止に向けて保護者との連携体制を強化する。
- ⑤生徒が創る学校づくりの継続及び職員の支援体制を確立する。

*本年度の学校自己評価結果は以上の通りでありました。1年間のご理解とご協力ありがとうございました。

なお、平成24年度は、左記を重点として、学校目標の具現に向けて取り組んでまいりますので、よろしくお願ひします。